

平成30年度 鳥取県図書館協会定期総会議事録(概要)

【日 時】平成30年6月27日(水)午後1時30分から2時40分まで

【場 所】大栄農村環境改善センター 2階 青年研修室

【出 席】32名

【議 長】山田会長

1 開 会

2 あいさつ

【山田会長】

地元の北栄町並びに中部地区の担当者には今回の準備等大変お世話になりました。今日は、昨年度の実践報告を聞いて決算を審議し、さらに30年度の計画と予算を審議していただく。その中の図書館大会で、未来の図書館はどうあるべきかというあたりをテーマに置いていると聞いている。そういう広がりのある図書館運営が進んでいるが、図書館協会もそういうところに視点を置いて未来に向かって流れをまとめていく必要があるかなと感じている。

3 報告事項

(1) 平成30年度人事異動等に伴う役員の退任・就任について

【事務局】

－「報告」資料に沿って説明－

○副会長：福本慎一⇒網浜聖子（鳥取県立図書館長）

○理 事：清水宏幸⇒菅原朗（米子市立図書館長）、坂尾博子⇒上村一也（鳥取県学校図書館協議会会長）、後藤宣明⇒米田達司（鳥取県学校図書館協議会副会長）、河田雅志⇒御船齋紀（鳥取県学校図書館協議会副会長）

〔新任役員あいさつ〕

副会長／網浜副会長、理事／菅原理事、上村理事、米田理事

4 審議事項

(1) 議案第1号 平成29年度事業報告及び決算案について ー監査報告ー

【事務局】

－事業報告及び決算案について、議案書に沿って説明－

<監査報告>

【監事】

5月18日に会計監査をした。馬野監事とともに諸帳簿、証拠書類等を見せていただき、きちんと整理されており間違いないと認めましたので、ここで報告させていただく。

〔質疑応答等〕

－1・2 理事会・定期総会－

(意見なし)

－ 3 第 2 3 回鳥取県図書館大会 －

【理事】

「サードプレイス」という新しい見方というか、「場の提供」は昔から行っているがなかなかそういう目が向かなかったところに今回、去年させていただいた。去年は震災の翌年だったので、そこにスポットを当てて分科会も開いた。子ども食堂という、子どもの貧困からスタートしたが、それにとどまらず図書館というのはすべての方に場を提供し、それが新たなサービスの拠点になるのだろうと思う。先日、引きこもりの研修会にも出て、引きこもり対策について協力させていただいて、ぜひ会場として使っていただいとという話もした。貸出を中心とするサービスも当然していくし、これからもどんどん発展させるけれど、やはり十分な空間というか、皆さん立派な図書館があるわけだから、場として図書館を使っていただいと、今日の問題にも対応する、そういうことが図書館に求められているのでは、と学ばせていただいたところ。

【事務局】

昨年の図書館大会で初めて「サードプレイス」という言葉のテーマを取り上げたが、大会以降も県立図書館主催で勉強会等をして、多くの皆様に参加いただいたりしている。具体的には、今年の図書館大会の分科会の中で智頭町に事例発表をいただき、鳥取市は、近いうちに市内の子ども食堂に対して図書館が本を配本する仕組みが動き出すことがほぼ決まったので報告させていただきますと。確実にそういう動きが進みつつあるなど実感しています。

－ 4 県内図書館視察 －

(意見なし)

－ 5 県外研修会参加費等助成事業 －

【事務局】

各自治体、あるいは組織で旅費を確保している場合もあると思うが、そのような場合でも支払いますので、旅費の一部として助成の金額を補填していただいとよいようにしている。どの自治体も旅費の確保がなかなか難しい状況なのではと思いますが、ぜひ上手に使っていただいと、「そんなのあったの？」というようなことがないようにしていただけたらと思っています。今年の助成の中身は後ほど提案しますので、しっかりチェックしていただけたらと思います。

【理事】

市町村などで長く非常勤で勤めている方の場合だと、旅費の確保が難しいのかなと思っている。現実としてそういう人が戦力として非常に大事だったりする場合もあると思う。そういう方たちができれば積極的に使って勉強できるという場面ができるといいのかなと思ったりもする。正職員は出る機会、あるいは予算確保が比較的容易だと思うが、現実問題としてそういった方が支えているという部分も考えると、公共図書館あるいは学校図書館のなかで非常勤の方が行く場面も少し考えてみていただけたらいいのかなと思う。

【議長】

立場で旅費が使えないというか、非常勤なんかで、本当は出たい、出したいと思ってもなかなかできない場合がある。それから出張に出た後どうするだあと言われるとまた考えてしまう、やめてしまうというような。こういったあたりを融通しながら出やすい状況をどういう具合につくるか、そういう環境をつくっていく方法も今後は必要になるのかなと思う。

－ 6 協会ニュースの発行－

(意見なし)

－ 7 【新規】発掘！図書館エピソード大賞－

(意見なし)

〔一般会計収支決算書(案)〕

(意見なし)

【議長】

ご意見等がないようですので、採決を行います。

－ 全会一致で承認－

(2) 議案第2号 平成30年度事業計画及び予算案について

【事務局】

－事業計画及び予算案について、議案書に沿って説明－

〔質疑応答等〕

－ 1・2 理事会・定期総会－

(意見なし)

－ 3 第24回鳥取県図書館大会－

【理事】

鳥取県図書館大会は、事前に日程が決まっているのか、翌年のスケジュールは？

【事務局】

2、3月に第1回目の実行委員会を立ち上げ、その時点で翌年どうしようか、ということ動いており、日程を決めていく感じです。7月の終わりの、できれば夏休みが始まったタイミングの月曜日。7月終わりというところで、会場が空いていたらそこに充てるということが基本的な考え方ですが、年によっては、月曜日にコンベンションも未来中心も閉まっていることが時にはあるので、多少その辺で変わってくることもあるくらい。

【日野町図書館】

図書館大会の取りまとめをしているが、続々と申し込みが来ており、締切は7月13日だが早めに申し込みを。分科会は申し込み順で、第1希望、第2希望、第3希望まで書いていただくが、早めに申し込まれたほうが希望の分科会に入ることができる。締め切り間際ではなく、なるべく早めに沢山申し込みいただければと思います。

【実行委員長】

7月12日に第5回目の実行委員会を開いて、当日の役割分担とか最終的な詰めをする予定にしている。もう1か月切っているので、多数のご参加をお願いしたい。

－ 4 県内図書館視察－

【議長】

高城小学校にも行くということで、中部地区5か所行くということ、短大の新しくなった図書館（鳥取看護大学附属図書館）も。中部の方、大変ですがよろしくお願いします。

－ 5 県外研修会参加費等助成事業 －

【議長】

先ほど提案の中で細かく説明もあり、一部はすでに照会済みもあるようですが、応募者がたくさん出るということを期待している。協会のお金を使いながら成果を上げてもらいたい。出にくい人もそれなりの相談をしていただいて、打開策があれば対応していただきたい。

－ 6 協会ニュースの発行 －

(意見なし)

－ 7 第2回「発掘！図書館エピソード大賞」 －

【議長】

今年から「部門賞」をつくるということ。応募者が100、200というように増えるといいかなど。こんな使い方があるかとか、要望なども含めてエピソードを出していただきたい。

【事務局】

「部門賞」を設けたいということで提案した。「部門賞」とは何かということですが、鳥取県図書館協会は、図書館の関係者、あるいは書店の皆さん、様々な皆さん方にかかわっていただいて成り立っている組織ですので、集めるエピソードも決して図書館だけにこだわらない、「本とのかかわり」ということでエピソードをお寄せいただいたらありがたいということで、枠を広げて考えたい。つまり図書館で本と出合った事例、あるいは書店で本と出合った事例、そういうような形のものをまずつくりたいなど。もう一つ、「青少年部門の設置を検討」と挙げていますが、昨年非常に苦慮したのは、大人が書いた文章と、小学校低学年が書いた文章をどうやって比較するかという話でした。どっちが優れているか、なかなか判断が難しいということで、ある程度の年齢以下の皆さんの応募者の賞というのを設定していきたいということで「青少年部門」を考えているということで、補足して案内します。

〔平成30年度一般会計予算書(案)〕

【議長】

意見がなければ、議案第2号平成30年度事業計画及び予算案について採決を行う。

－ 全会一致で承認 －

(3) その他

(意見なし)

5 その他

【事務局】

以上で平成30年度鳥取県図書館協会定期総会を終了する。

－ 閉 会 －